

作物栽培管理情報

令和8年8月号

大分県中部振興局 生産流通部 集落営農・水田畑地化班

水稻の栽培管理 ～水管理と病害虫防除～

◎水管理

気象庁の1か月予報、3カ月予報では、降水量はほぼ平年並の見込みですが、少雨で推移する可能性もあります。地域による水利計画に基づき水管理しましょう。畦畔や排水口からの漏水防止対策を徹底し、必要な時に最低限必要な水の量で、節水栽培を心がけましょう。

生育時期	幼穂形成期 (幼穂が1～2mm程度)	穂ばらみ期～出穂開花期	乳熟期～糊熟期
水管理	間断灌水 3日湛水・2日落水	3～5cmの湛水(可能であれば) ※連続5日以上は湛水は行わない	間断灌水 3日湛水・2日落水

- ・落水は収穫の7～10日前(湿田は少し早く)を目安に行いましょう。
- ・早期落水は未熟粒、乳白米などの原因となります。

◎いもち病 いもち病は7～8月の低温

(20～25℃)多雨で発生しやすくなります。

葉いもち(葉いもち)は穂いもちの伝染源となるため病斑確認後はすぐに防除しましょう。



←葉いもち

◎紋枯病 紋枯病は高温多湿により助長されるため近年の温暖化により、まん延しやすい環境になっています。病斑は株元に発生し、発生面積を拡大した後、上位の葉鞘へ進展します。株元に病斑の発生が見られたときは、防除しましょう。

昨年紋枯病が発生した圃場では今年も発生する可能性が高いので必ず防除しましょう。

防除適期は穂ばらみ期です。粒剤の場合は出穂2～3週間前に防除しましょう。



←紋枯病

紋枯病防除薬剤例 (2026年7月22日時点での登録)

薬剤名	使用時期	使用量/10a	希釈倍率
モンガリット粒剤	収穫30日前まで	3～4kg	—
モンカット粒剤	出穂30～10日前 (収穫14日前まで)	3～4kg	—
ブラシンバリダフロ アブル	収穫14日前まで	60～150L	1000倍

裏面へ

◎ **カメムシ** 高温時はカメムシの発生量が増加し、被害を受けると斑点米を生じます。カメムシは県内全域で発生が見られるため防除は必須です。被害を減らすためにも薬剤の**2回散布**を行いましょう。カメムシの防除はタイミングが重要になります。

・ 防除のタイミング

1回目	穂ぞろい期（全体の8割以上の穂が出た時期）
2回目	1回目の7～10日後

※発生が多い圃場では3回目の防除も実施しましょう。

近年発生が増えている**イネカメムシ**の特徴

- ・ 斑点米だけでなく、不稔米を発生させる
- ・ 成虫の体長：約13mm
- ・ 黄褐色で背部両面に白色帯を持ち、やや細長い



←イネカメムシ

※イネカメムシは従来のカメムシよりも早期に発生するので、圃場にいる場合は出穂期（全体の5～6割の穂が出た時期）に1回目の防除をしましょう。

☆出穂直前に草刈りをするとうカメムシが畦畔から圃場に入ってしまうため、水田周りの草刈りは出穂の2週間前までにいきましょう

カメムシ防除薬剤例（2026年7月22日時点での登録）

防除	薬剤名	使用時期	10aあたり 使用量	希釈倍率
1回目	スタークル粒剤	収穫7日前まで	3kg	—
	スタークル粉剤DL	収穫7日前まで	3kg	—
	スタークル液剤 1 0	収穫7日前まで	60～150L	1000倍
2回目	エクシードフロアブル	収穫7日前まで	60～150L	2000倍

※使用前はラベルをよく読み、使用時期、使用方法を守って散布しましょう。
※2回目防除は1回目防除と違う薬剤の施用をおすすめします。

◎ **穂肥（分施の場合）**

ヒノヒカリは幼穂長10mm（出穂期18日前）・適正葉色板値4.0、
なつほのかは幼穂長2～10mm（出穂期22～17日前）のタイミングで追肥を
しましょう。

※高温が続く際、葉色が淡すぎる場合は出穂前に少量追肥も検討しましょう。

大豆の栽培管理 ～中間管理と雑草の体系防除～

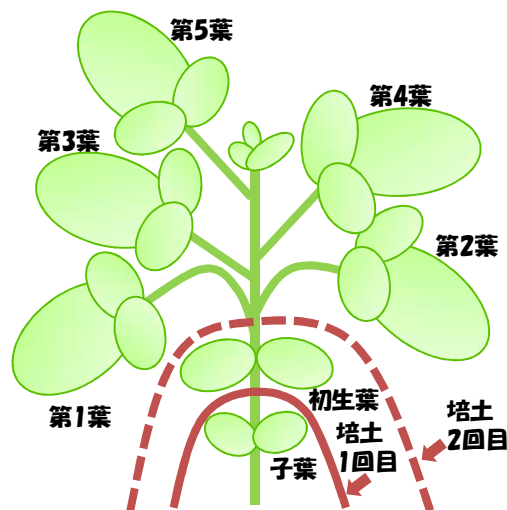
◎中耕培土（開花期前までに実施）

中耕培土は、湿害や雑草、倒伏を軽減するとともに大豆の生育を促進します。適切な時期に2回行いましょう。

回数	適期	培土の高さ
1回目	本葉2～3葉期	子葉が埋まる程度
2回目	本葉5～6葉期 (播種後30日頃)	初生葉が埋まる程度

※ 2回の実施が難しい場合は4葉期以降、
1回で初生葉までを目安に極力高く培土します。

※乾燥が心配な場合は作業前に指導機関に相談してください



アサガオ対策は7月号を参照ください

◎雑草対策（生育中除草剤）

大豆の除草は初期の対策がとても重要です。雑草が大きくなる前に除草できる体系を整えましょう。

薬剤名	適用雑草	使用時期	10aあたり使用量	10aあたり散布液量	使用回数および注意事項
パワー ガイザー液剤	一年生雑草	大豆の出芽直前～本葉3葉期 (雑草発生始期～2葉期)	200～ 300mL	100L	1回 (雑草茎葉散布 又は全面土壌散布)
ポルトフロア ブル	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビ ラを除く) イネ科のみ	収穫30日前まで (イネ科雑草3～10葉期)	200～ 300ml	通常散布 50～100L 少量散布 25～50L	2回以内 (雑草茎葉散布又は 全面散布)
大豆 バサグラン 液剤	一年生雑草 (イネ科を除く) 広葉雑草のみ	大豆の本葉2葉期～開花前但 し収穫45日前まで (雑草生育初期～6葉期)	100～ 150mL	100L	1回 (雑草茎葉散布 又は全面散布)

◎ 畝間灌水について **開花期～子実肥大期**に圃場が乾いていたら注意しましょう

1. 灌水(=畦間灌水)の目安

畦間の土壌表面が白く乾き、日中、葉の反転が50%以上みられるようになった時期。

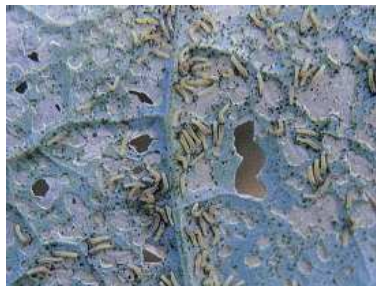
2. 灌水の方法

通し水をして速やかに排水しましょう。日中（高温時）にかん水すると根を傷めますので、夜間から早朝にかけての涼しい時間帯に実施し、朝にはうね間に水を残さない



◎ハスモンヨトウについて

- ①幼虫の齢が進むほど、防除が難しくなるため、早期発見と早期防除を心がけましょう！
②網目状の葉が圃場の全面に広がり始めると薬剤散布による防除効果が出にくくなります。
近年発生が早くなっています。白変葉を見つけたらすぐに防除を！



幼虫



終齢幼虫



白変葉

★使用薬剤について

使用薬剤	IRACコード	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法
プロフレアSC	30	2000～4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布
		16～32倍	0.8～1.6L/10a	収穫前日まで	3回以内	無人航空機による散布
ベネビアOD	28	2000～4000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布
		32倍	0.8～2.4L/10a	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布
グレースIA乳剤	30	2000～3000倍	100～300L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布

同じコード農薬の連続使用を避けるようにしましょう

・IRACコードとは

農薬の作用機構（効き方）を分類したコードです。IRACコードが同じ農薬を連用すると害虫が抵抗性を獲得しやすくなり効果が低下します。

農業情報メール配信の登録募集！

～米・麦・大豆の栽培管理情報をいち早くキャッチしよう！～

★ 登録方法 ★

配信受付（スマート申請システム）

<https://ttzk.graffer.jp/pref-oita/smart-apply/surveys-alias/nougyouzyouhou>

上記のアドレスまたはQRコードからアクセスし、メールアドレス等の必要事項を入力してください。後日、農業情報をメール配信します。



お問い合わせ先：大分県中部振興局 地域営農・水田活用班 電話 097-506-5791
ホームページ：http://www.pref.oita.jp/soshiki/11604/saibaikanrizyouhou.html